



明倫

舞鶴市立明倫小学校

平成30年11月30日

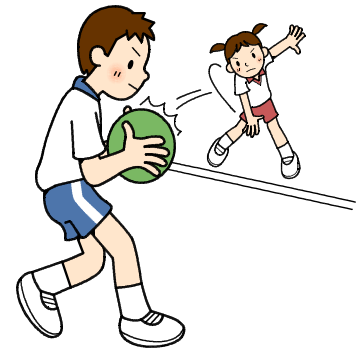
12月

言葉のキャッチボール

明倫緑地の木々もすっかり葉を落とし、冬支度をしています。昼間は太陽の光でかなり気温が上がりますが、朝夕は冷え込み子どもたちの登校を見守っていると芯から冷えてきます。

人権月間で「言葉のキャッチボール」という話をしました。受け取りやすい言葉をかけると受け取りやすい言葉が返ってくる。やさしい言葉をかけるとやさしい言葉が返ってきます。一人一人が言葉の重みに気付くとあたたかい空気に包まれたような気持ちになるというのは不思議なものです。

子どもたちの言葉のやりとりで気にかかることがあります。それは、友達の呼び方に差があることです。人によって「君」「さん」づけで呼ぶときと呼び捨てにしたりニックネームで呼んだりする場合があります。友達を区別していないでしょうか。「親しいから呼び捨てやニックネームで呼ぶ」というのはよく聞きますが、知らず知らずのうちに友達に差をつけているのではありませんか。今まで気にしていなかった友達の呼び方で、ひょっとしたら友達の中にはいやな思いをしていた人がいたかもしれません。自分はそのつもりでなくても相手は傷ついていたかもしれません。人権月間のこの機会に自分が使っていた言葉の使い方についても考えてみることも大切です。



友達の呼び方も同じです。やさしい言葉を投げれば必ずやさしい言葉が返ってきます。言葉のキャッチボールを大切にしたいものです。

校長 池田 弘一

いのち・心を見つめる日

明倫小学校は毎月1日を「いのち・心を見つめる日」としています。それは10年前の12月1日、明倫小学校で6年生の児童がこの日に亡くなったことから設けています。

6年生は「いのちの授業」として、共済病院の助産師さんから自分たちがどのようにしてこの世に生まれてきたのか、どれだけ大切に育てられてきたのかを学びます。実際に妊婦さんに来ていただき授業にも参加していただきます。命の大切さ、生命の神秘さについて改めて考える機会になれば幸いです。